
ケロン人VS下町警察官

高畑ルパン一郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ケロン人VS下町警察官

【Nコード】

N8804K

【作者名】

高畑ルパン一郎

【あらすじ】

ケロロが地球侵略に目をつけたのは警察。その侵略作戦中に出会ったのはこち亀の両さん！！両さんの破天荒とケロン軍の科学力がとてつもない化学反応を起こす！！

登場人物

ケロロ軍曹：ガマ星雲第58番惑星 宇宙侵攻軍特殊先行工作部隊隊長。ガンプラーマニア。

偽名：青島 ケロ作（踊る大捜査線の青島 俊作）

タママ二等兵：地球侵略軍の先発隊新人隊員。甘党の多重人格者。

偽名：鷹山 タマ樹（あぶない刑事の鷹山 敏樹）

ギロロ伍長：ケロロ小隊の機動歩兵。「大鑑巨砲主義」が座右の銘の夏美好き。

偽名：室井 ギロ次（踊る大捜査線の室井 慎次）

クルル曹長：ケロロ小隊の作戦通信参謀。自他共に認める「嫌な奴」で、発明家。

偽名：大下 クル次（あぶない刑事の大下 勇次）

ドロロ兵長：ケロロ小隊の暗殺兵。優しく生真面目な性格で、大量のトラウマを持つ。

偽名：真下 ドロ義（踊る大捜査線の真下 正義）

アングルモア：ケロロ小隊のオペレーター。愛するケロロをいじめた者は制裁を下す。

偽名：風間 モア（時空警察の風間 裕子）

日向夏美：ケロロの居候している日向家の長女。成績優秀、スポーツ万能でサブロー好き。

日向冬樹：ケロロの居候している日向家の長男。運動音痴のオカル

トマニア。

両津勘吉：新葛飾警察署の巡査長で亀有公園前派出所勤務。ゴキブリ並みの生命力者。

大原大次郎：新葛飾警察署地域課の巡査部長・亀有公園前派出所の責任者。両津の天敵。

中川圭一：新葛飾警察署地域課所属の巡査、亀有公園前派出所勤務
中川グループの社長。

秋本麗子：新葛飾警察署地域課所属の巡査、亀有公園前派出所勤務
中川と同じ金持ち。

寺井洋一：新葛飾警察署地域課所属の巡査、亀有公園前派出所勤務
まじめな警察官。

その他いろいろ。

登場人物（後書き）

どうも、高畑ルパン一郎です。

他のホームページに出した小説ですが、今回は改めてこのホームページでも連載していこうと思います。

気が向いたら投稿しようとお思いますのでよろしくお願いします。

予告（前書き）

まずは予告編からどうぞ。

予告

予告

ケロロ軍曹とこち亀が夢のコラボレーション！！今回は「ケロン人VS下町警察官」。

地球侵略のために軍曹が目につけたのは国家権力の警察。警察官の力を知るには実際に体験するしかないと考え、研修をすることに。クルルが選んだケロロ小隊とモアの研修場所は、なんとあの連載30周年を迎えた両さんがいる亀有公園前派出所だった。両さんの破天荒ぶりにはケロロ達もビックリ仰天。ケロロ小隊とクルルの発明が組み合った両さんはまさに鬼に金棒状態。そんなケロロ達を追って亀有に日向家の皆さんに、フリーターの556、大原部長が苦手になってしまったポヨンにポヤン、ケロロ小隊にリベンジを燃やすヴァイパー、ガルル小隊にケロロの父等続々とやってくる。こち亀の方も負けずに纏やボルボや左近寺を始め、超人気の特務刑事課に通天閣署の御堂春、クルル並みの発明をする絵崎コロ助、ケロロ小隊及びガルル小隊に興味がある爆竜大佐、アニメにしか登場しない小野小町に清正奈緒子も続々と出演予定。亀有はまさにお祭り状態果たして亀有と警察と地球の運命はいかに。すべては両さんの手に委ねられた。「ケロン人VS下町警察官」近日公開！！

予告（後書き）

どうも、金曜ロードショー風の予告編を作ってみました。感想をよろしく願います。

PART 1 ケロロ亀有公園前派出所に配属であります（前編）（前書き）

ついに始まりました！！すべてはここから始まった。

PART 1 ケロ口亀有公園前派出所に配属であります（前編）

PART 1 ケロ口亀有公園前派出所に配属であります（前編）

月×日 PM 8：00日向家ケロ口の部屋

ケロ口（以下略ケ）「ゲロゲロゲロ、この作戦で行けば地球制服も成功したのも同然。早速明日行動開始であります。」

ケロ口軍クルル（以下略ク）「いや無理だぜ、この作戦。」

日向家の地下室で作戦会議の真つ最中の同じみのケロン人のケロ口軍曹とクルル曹長。

ケ「何だよ、せつかく作戦なのに、どういいしてでありますか？」

ク「この作戦には宇宙法で禁止されている方法があるぜえ。これじやあ、作戦実行中に宇宙警察に捕まって失敗しちまうのがオチだぜ。まあ、それでもいいなら実行すればいいぜえ。クーツクツクツクツク。」

ケ「ゲロ、そそれはやだでありますなあ。」

困る軍曹。それもそのはず、ケロ口は何度も宇宙警察に捕まっているのである。

ケ「健康ランドは没収されるは、レースで反則で罰金払われるは、ウレレの作戦を使おうとしたらパクリで逮捕されるはと散々でありますよ。」

（ナレーション）いや、それらはあんたのせいですから。

共鳴し合うケロロとクルルであった。

翌日 月 日 AM 10:00 地下秘密基地内作戦会議室

ギロロ（以下略ギ）「地球中の警察官の力を使うだと?!」

侵略会議でケロロの作戦に驚くギロロ伍長。

ケ「その通りであります。我々軍人は基地内ですーっと戦闘状態になるまで待機したり訓練ばかりしている。ほとんど外に出る機会はないであります。しかし、警察官は町中をパトロールしたりと地域に密着しております。これならば怪しい行動をとっても捜査中と思われ怪しまれないであります。それに警察はドラマ化に映画化となるほど人気者。子供が将来成りたい仕事にも上位ランクにもものし上がっている確率が高いであります。これほどの力を持っているもの達を使わないともったいないであります。」

タママ（以下略タ）「凄いです。さすが軍曹さんです。」

ほめるタママ二等兵。

ドロロ（以下略ド）「して、どのような作戦でござるか?」

質問をするドロロ兵長。

ケ「こいつを使うであります。ポチツとな。」

ボタンを押すケロロ。すると床が割れ、そこに巨大なケロロ將軍の胸像らしい機械が出てきた。

ギ「何だこの機械は?!」

ケ「これはクルルが作った『スベテノ生き物ヲアツリ世界ヲ闇ニ塗り替エル機』。このケロロ將軍の兜から超特殊な催眠電波が出て、決められた宇宙人や地球人を自由に操られる機械であります。」

ク「クツクツク。まずは、俺の作ったこの特性の催眠電波発生装置『スベテノ生き物ヲアツリ世界ヲ闇ニ塗り替エル機（通称キングオブデビル）』で警察官限定に催眠電波を発射し、世界中の警察官達を操る。この電波を浴びちまった警官は俺たちに従い、どんな小さい罪を起こしちまった地球人どもを捕まえちまう。まあ、世界中の警官が洗脳されるまでは怪しまれねえように普通だがな。そこまでは第一段階だぜ。」

『スベテノ物ヲアツリ世界ヲ闇ニ塗り替エル機（通称キングオブデビル）』の前で説明をするクルル。

ケ「第二段階は、『キングオブデビル』を警察官以外の地球人どもに催眠電波を発射し、罪を犯してもらうであります。万引きから銀行強盗までと警察官が捕まえられるまでの罪であります。そこへ我々が洗脳した警官どもが逮捕しまくる。そうすれば自動的に我々が地球を征服できる訳であります。」

ギ「おおおお、こいつは素晴らしい計画だ!!ケロロ、お前はやるときはやる男だ!!」（涙）」

ケロロの作戦に感動するギロロであった。その感動はタツグトーナメントで仲間がマスクが取れて丸見えの素顔を守る姿に感動するロビンに値する程だった。

ド「しかし、隊長殿、ちょっと心配事が2つあるでござるが。」

ア「ンゴル＝モア（以下略モ）」「おじさま凄いです。っていつか頭脳明細？」

ケ「ロロをほめる恐怖の大王モア。」

タ「これでやっと、ケロン星に胸はって帰れるですつ。」

ケ「そう、長かった任務もこれでやっと終了であります。」

ド「あの、もしも……。」

ギ「たく、こんないい作戦があるならさっさと思いつかんか。」

ゲ「ケロケロ、こりや面目ないであります。」

ク「オイ。」

ゲ「ん、何であります。クルル曹長。」

ク「ドロロ兵長がまたトラウマモードになりかけているゼエ。」

全員「あつ。」

ド「酷いよ、みんな。また僕を無視して。（涙）」

みんなに無視されてトラウマモードに成りかけている影が薄い。ドロロ兵長であった。

ケ「すまんがありますドロ口兵長。何でありますか？」

すぐにドロ口に質問をするケロロ。トラウマモードになってしまつとまた厄介であるからである。

ド「うむ、心配することがあつて、一つは夏美殿や小雪殿はどうするでござるか？もう一つは殺人とかの問題も起きるのでござるか？」

ケ「大丈夫でありますよ。夏美殿や冬樹殿達は我輩達にさからうだけであります。それだけで警察官達に捕まわせるであります。殺人は起きないようにと電波で調整可能であります。」

ギ「よし、早速作戦決行だ！！」

ケ「その通りと言いたい所ではありますが。我々はまだ調べる事があります。」

ギ「ナツ何だそれは？！」

ケ「本当に警察官が利用する価値があるかどうかであります。」

全員「はっ？」

全員が驚く。

ギ「貴様、さっきまで警察官達は役に立つといていただろうが！
！」

ケ「でもさあ、我々よく警察官の本当の力分かって無いじゃん。密着番組ってというのがあるけどさあ、捏造している事もあると思うん

だよね。某テレビ局の某番組の納豆のやつみたいにあ。

ギ「う、うむ。確かにそうだな。」

タ「じゃあ、どうするんですか？」

ケ「警察官を実際に体験して見るでありますよ。」

ギ「何だと?!」

ケ「地球のことわざには「馬には乗ってみよ人には添ってみよ」というのがある。乗馬は実際に馬に乗ってみないと分からないし、人間の善し悪しも実際に付き合わないと分からないという意味であります。やはり警察官の力を知るには警察官に成るしかないであります。」

隊長らしく洪く説明する軍曹であった。

ギ「確かにその通りだ。しかし、どうやって。」

ケ「そこはタママ二等兵。」

タ「はい、軍曹さん。」

ケ「桃華殿に頼んで、警察官の研修ができるように頼んでくるであります。」

タ「お任せください軍曹さん!!軍曹さんのためなら警察どころか、グリーンベレーやSWATにも研修ができるようにしますよ。」

愛するケロロに燃えるタママ。只今気温50°。上昇中。

モ「ところでおじさま、研修をするならばどこにしますか？」

ク「そいつは任せな。」

パソコンを取り出して何やら打ち込むクルル。

ク「俺のスーパーコンピュータでどこがいいか調べてみるぜえ。」

ケ「そりゃやつぱり、秋葉原でしょ。ガンプラがすぐに買いに行けるでありますよ。」

ガンプラを買いに行く所を想像するケロロ。

ギ「いや、やはり横須賀だ！横須賀基地で米軍の魂を学ぶぞ！」

ド「やはり、京都がいいでござる。自然に落ち着くでござるよ。」

それぞれ行きたい所をいうギロロとドロロ。

ク「おっ、結果が出たぜエ。」

ケ「どこでありますか？」

ク「東京都葛飾区亀有公園前派出所だ。」

To be continued

PART 1 ケロロ亀有公園前派出所に配属であります（前編）（後書き）

ついに始めてしまいました。

これからどうなるかは作者本人も分かりません（オイ）。

皆さん楽しみに待っていて下さい。

ではちょっとだけ元ネタを教えます。

『スベテノ生き物ヲアヤツリ世界ヲ闇ニ塗り替エル機』 水木一郎
が歌う悪魔將軍のテーマ”キング オブ デビル”の歌詞の一節

ロビン ロビンマスク

それじゃあ、また会おうぜ！！

PART 2 ケロロ亀有公園前派出所に配属であります（後編）（前書き）

ついに両さんとのファーストコンタクト!!

PART 2 ケロ口亀有公園前派出所に配属であります（後編）

PART 2 ケロ口亀有公園前派出所に配属であります（後編）

ケ「東京都葛飾区亀有公園前派出所？それってどこにあるの？」

ク「地図で見るとここだな。」

巨大なスクリーンに東京都の地図を出すクルル。

ケ「何だよ、葛飾って埼玉県側じゃん。そんなところより山の手の方がいいよ。」

ド「でも、葛飾区は下町である。いい所だと思つてござるよ。」

全員「下町？」

ド「東京の下の方にある町の事で、商人や伝統があり、情緒があふれていい所だと思つてござるよ。」

ケ「ふーん、だったらいいかもしれないでありますね。」

ク「俺のパソコンによると、どうやらその派出所にはとんでもねえ警官がいるらしいぜエ。」

ケ「ほほお、そいつはどんな奴でありますか？」

ク「こいつだ。」

ギ「ギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロギロ（以下略）」

ク「クルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルクル（以下略）」

ド「ドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロ（以下略）」

成功を祈り、共鳴し合うケロロ小队。

モ「ってというか、一致団結？」

ついにプロジェクトがスタートした瞬間である。

この時、とてつもない経験をするとはまだ誰も知る由は無かった。

数時間後 月 日 P M 1 : 0 0 地下秘密基地内資料室

タ「軍曹さん、モモチに社会勉強として頼んだら許可が取れたですう。研修は来週からですう。」

資料室に喜びながら入ってくるタママ。本を読んでいたケロロが振り返った。

ケ「おお、でかしたぞタママ二等兵！さあ全員、研修期間までに警察官の事を調べまくるでありますよ。」

全員「おお。」

それから一週間、軍曹達は警察の事を調べまくった。ありとあらゆる資料を読みあさり、警察官関係の映像を見まくり、クルルの作ったペコボンスーツ（警察官バージョン）でこれまたクルルの作ったバーチャルリアリティーでシミュレーションを何度も繰り返した。

ク「資料には高畑京一郎のクリス・クロスを読んだぜえ。」

そして研修期間の前日になった。

月 日 AM 10:00 新葛飾署署長室

大原（以下略大）「研修生ですか？」

署長に呼ばれてやって来た亀有公園前派出所の責任者大原大次郎部長。

屯田（以下略屯）「うむ、そうなんだよ。」

大原部長に説明をする新葛飾署署長屯田五目須。

屯「西澤グループか多角の資金が送られてきてなあ、警察官の研修をやってみたい連中がいるのでお願いしたいと頼まれてなあ。しかも希望してるのが、君の亀有公園前派出所なんだよ。お願いできるかねえ。」

大「はい、分かりました。で、どんなのですか、研修希望者は？」

屯「うむ、それがこういう連中なのだがね。」

書類を渡す屯田署長。それを見る大原部長。

大「な、何ですか、この蛙みたいのは?!」

そこには警官に変装中のケロ口達の写真がはっていた。

屯「私も聞いてみたんだが、気にしないでくれと言ってきた。まあ、取りあえず明日から頑張ってくれたまえ大原君。」

大「はい、分かりました。失礼しました。」

書類を持って部屋から出る困り顔の大原部長。

大「えーっと、名前が顔が緑なのは青島ケロ作（ケロ口軍曹）、青が真下ドロ義（ドロ口兵長）、赤が室井ギロ次（ギロ口伍長）、黒が鷹山タマ樹（タママ二等兵）、黄色が大下クル次（クルル曹長）、唯一人間の顔の女の子が風間モア（アングルモア）か。なんか凄い事に成りそうだな。」

書類を読みながら廊下を歩く大原部長であった。

同日 月 日 PM 9:00 日向家

ケ「諸君、いよいよ明日から研修が始まるであります。それでは荷物の最終確認を行う。」

全員「おお。」

最終チエツクを始めるケロロ小隊。

ケ「まずは武器の確認、ギロロ伍長。」

ギ「おう、戦闘用の武器は一通りに用意した。人生ガ二度アレバ銃やボクラハミンナイキテイル銃、万能兵器化飲料ナノラも入れておいたぜ。」

武器を出すギロロ伍長。

ケ「よし、次タママ二等兵。」

タ「はい、ケロン軍特性の非常食もたつぷりと用意したですう。後、モモチチから研修中の費用でクレジットカードも現金もたんまりあるですう。」

食料と現金を出すタママ二等兵。

ケ「よし、次クルル曹長。」

ク「おう、発明を作るための材料を大量に用意したぜえ。後、例のやつも準備OKだぜえ。」

大量の材料と四角い赤い箱を出すクルル曹長。

ギ「何だそれは？」

不思議がるギロロ伍長。

ケ「おおでかしたぞクルル曹長。こいつが無ければ作戦はうまく行

かないでありますからねえ。次ドロ口兵長。」

ド「ふむ、通信機材やパソコンを用意したでござる。これがないとケロン星からの情報も手に入らないでござるからねえ。」

通信道具やパソコンを出すドロ口兵長。

ケ「よし、次モア殿。」

モ「ハイおじさま。少年アルファとガンプラです。っていうか商標登録？」

大量のガンプラを出すモア。

ギ「ガンプラだと！貴様何しに行くつもりダアー!!」

怒るギロ口。

ケ「いいじゃない、暇な時にゆっくり作りたいモン。」

ギ「アホか！俺はそんなこと許……。」

ケ「夏美殿のプラモデルもありますよ。」

ギ「……そう!!」

ケ「これですべてよし。諸君明日早朝に日向家を出発する。前線基地への入り口を封鎖、我輩とギロ口は早速この箱を使つであります。他は明日に備えて睡眠を取ること。」

ギ「おい、早速その箱を使うのかよ。」

ケ「そう、なぜならこの箱の中身はこれです。」

赤い箱を開けるケロロ。その中をのぞくギロロとタママとドロロとモア。

ギ「こいつは。」

タ「なるほど。」

ド「これはなかなか。」

モ「おじさま凄？い。」

タ「だろ、早速こいつを使わねえと意味がないぜえ。」

その夜、タママ達は睡眠をし、ケロロとギロロは極秘の作戦を発動した。

ついに迎えた研修初日。

研修1日目AM5:00:00(ドラマ24風に)日向家玄関前

ケ「諸君いよいよ作戦開始の準備のための研修期間が始まった。張り切ってもらおう。」

全員「おおっ。」

万全な荷物を持ち、研修へ行こうとするケロロ軍曹達。

ギロロがテントを片付けていると、居候の猫がやってきた。

猫「ニャー。」

ギ「おお。俺を心配するのかお前は。でも心配するな。今回こそはうまく行きそうな作戦なんだ。成功を祈ってくれよ。」

猫「ニャオー。」

心配をする猫。

ケ「では、出陣であります!!」

全員「イエッサー!!」

ケ「さらば日向家。我が小隊は今度こそ地球を侵略するであります。」
日向家に向かつて敬礼をするケロロ小隊とモア。そんな事知らずに睡眠中の日向夏美と日向冬樹。

ケ、タ、ギ、ク、ド「ケロッ!ケロッ!ケロッ!」

ケ「いざ進めッ!地球侵略せよ」

ケ、タ、ギ、ク、ド「ケッケロッケロッ!」

タ「傘持って出かけた日にはいつも晴れ」

ケロツ！とマーチ（小隊Ver.）を歌いながら出陣をするケロ口小隊であった。

モ「っていつか全員合唱？」

ツツコミを入れる婦警姿のモア。

研修1日目 AM08:45:30 亀有公園前派出所内

中川（以下略中）「研修生ですか？」

部長に質問をする中川圭一。

大「うむ、西澤グループから頼まれてなあ。今日からくる予定なんだ。」

麗子（以下略麗）「あら、あの有名な西澤グループから？」

興味を持つ秋本麗子。

寺井（以下略寺）「確か凄い大金持ちだよな。」

発言をする寺井洋一。

中「ええ、我が中川グループと全く同じぐらいに有名な財閥ですね。特に宇宙開発に力を入れてます

ね。」

大「もうそろそろ来る頃だな。」

壁の時計をみる大原部長。

研修1日目 AM08:50:00 亀有公園前派出所上空西澤家のへり内

ポール（以下略ポ）「皆様、亀有公園前派出所に着いたでございます。」

ケロロ小隊に知らせる西澤家執事ポール森山。

ケ「よつしゃ、諸君いよいよであります。早速ペコポンスーツを着るであります。」

タ、ギ、ク、ド「了解。」

ケ「では、パイルダーオン（水木一朗風）！！」

次々にペコポンスーツ（警察官バージョン）にパイルダーオンするケロロ小隊。その上にカツラもかぶる。

ポ「ワイヤーを降ろせ！」

パイロットA「ハッ！」

ワイヤーを六本降ろすパイロット。亀有公園前派出所では。

大「何だ、ワイヤーが六本降りて来たぞ？」

中「あ、あのへりは西澤グループのもですよ。」

驚く中川と大原部長。

ケ「諸君、出陣であります!!」

全員「おお。」

ケロン軍で習ったロープでの降りる方法を使い、華麗にワイヤーを滑るケロロ小隊。続いてモアもケロロに習った通りに滑る。

派出所前に立つケロロ小隊とモア。

中「あの君たち、もしかして研修希望の人たちですか？」

驚きながら質問をする中川。

ケ「はい、今日からお世話になる青島ケロ作であります。」

警察手帳を見せる青島俊作の髪型のカツラを被っているケロロ。

タ「同じく鷹山タマ樹。」

警察手帳を見せる鷹山敏樹の髪型のカツラを被っているタママ。

ギ「同じく室井ギロ次。」

警察手帳を見せる室井慎次の髪型のカツラを被っているギロロ。

ク「同じく大下クル次。」

警察手帳を見せる大下勇次の髪型のカツラを被っているクルル。

ド「同じく真下ドロ義。」

警察手帳を見せる真下正義の髪型のカツラを被っているドロロ。

モ「同じく風間モア。っていうか時空警察？」

警察手帳を見せるモア。

大「そ、そうか。ワシが亀有公園前派出所の責任者の大原である。」

中「な、中川圭一です。」

麗「あ、秋本麗子よ。」

寺「て、寺井洋一だよ。」

戸惑いながらも自己紹介をする派出所職員。

ケ「一生懸命頑張るでありますので、よろしくお願いします。あれ？」

大「どうしたのかね？」

ケ「一人いないでありますなあ。我輩たちがここを選んだ理由の……」

両津（以下略両）「遅刻だー！！」

自転車ごと派出所に突っ込む派出所勤務の両津勘吉。

その勢いに巻き込まれるケロロ小隊。踏まれるドロロ。ちょうど時間には朝の九時になっていた。

両「よしぎりぎりセーフ！！部長今日は遅刻しませんでした。」

自転車から降りる両津。

大「バッカモン！！自転車ごと派出所に突っ込む奴がいるか！！」

ケ「いててて。あっ、こいつであります。」

両「ん、部長何ですか、この蛙みたいなやつらは？」

中「今日からここにお世話になる研修生ですよ先輩。」

ギ「こいつが両津勘吉か。」

タ「とてもハチャメチャな人です。」

ク「こいつは凄いぜエ。」

ド「早く降りてくれでござるよ。」

モ「っていうか、元気爆発？」

こうして、両津勘吉とのファーストコンタクトを交わしたケロロ小

隊であつた。

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

PART 2 ケロロ亀有公園前派出所に配属であります（後編）（後書き）

どうも後編を書きました。

ついに両さんを出しました。うまく操縦ができるかどうか分かりませんね。

どうか応援をよろしくお願いします。

前編と後編を合わせればアニメの前半になると思います。

では、今回も元ネタを教えます。

青島 ケロ作 踊る大捜査線の青島 俊作

鷹山 タマ樹 あぶない刑事の鷹山 敏樹

室井 ギロ次 踊る大捜査線の室井 慎次

大下 クル次 あぶない刑事の大下 勇次

真下 ドロ義 踊る大捜査線の真下 正義

風間 モア 時空警察の風間 裕子

赤い箱 小さいですけどイメージでは「魔人探偵脳噛ネウロ」に登場する殺人犯『Xi』が作る赤い箱』（死体は入っていません。）

高畑京一郎 電撃文庫の小説家の高畑京一郎先生 ペンネームのモデル

パイルダーオン マジンガーZ

元気爆発 エルドランシリーズの「元気爆発ガンバルガー」（大ファンです。ガンバートームも出演予定です。）

それじゃあ、また会おうぜ！！

PART 3 ケロロ派出所勤務開始であります。(前書き)

ケロロ小隊の派出所勤務がついに始まった。

PART 3 ケロロ派出所勤務開始であります。

PART 3 ケロロ派出所勤務開始であります。

研修1日目 AM09:05:30 亀有公園前派出所内

両「で、わしに会うためにここを選んだ訳か。」

ケ「そうですね。」

自分の席に座りながらケロロの話を聞く両津。

ケ「よろしくお願いします、両津殿。」

両「いや、お前らわしの事は気軽に両さんと呼べ。」

ケ「はい、両さん。」

大「では、教育係はお前にまかすぞ両津。」

両さんにケロロ小隊の世話を押し付ける大原部長。

両「ええ、わしですか？」

大「そうだ、ケロ作君達はお前に会うためにここを選んだからな。しっかり教育してやれ。」

中「でも、どうして先輩なんかに会いに来たんですか？」

質問をする中川。

ケ「そりゃ、両さんが凄い警官だと小耳に挟んだからであります。何でも両さんはとてつもなくタフで、凄い怪力者だと。」

両「まあな。」

大「始末書も一万枚も書いとるがな。」

中「借金大王でもあるし。」

麗「女子の不人気NO.1よ。」

寺「何でも食べる悪食だし。」

両さんの悪口を言う面々。

両「うるさいな!!」

ケ「部長殿、始末書とは何でありますか？」

大「業務などにおいて過失や規程違反を犯した者が、事実関係を明らかにするとともに謝罪し、再発させないことを誓約するための書類の事だ。普通はたくさん書かないもんだが、こいつの場合はやり過ぎなんでいっぱい書いているんだ。お前達もこんな事に成らないように気を付けるんだな。」

ケ、タ、ギ、ク、ド、モ「はい。」

言う事を聞くケロロ小隊。

ケ「ではお世話になります、両さん型ザク殿。」

両「そうそう、ウィーンガシャって、誰がザクじゃー!」

ザク化する両津。

ケ「あつ、間違えましたシヤア専用ザク殿。」

両「それじゃあ、ザクつながりだろうが!ー両さんだ、両さん!ー!」

シヤア専用ザク化する両津。

タ「気にしないで下さい両さん。軍曹さんガンブラが大好きなので。」

「

中「軍曹?」

うっかり階級を言ってしまったタママに質問をする中川。

ド「タママ殿。」

ク「軍曹じゃなくて、ケロ作だろうが。」

タママに教えるドロロとクルル。

タ「あつ。えっと、あのその。」

困るタママ。

ギ「俺たち、あれなんだ、サバイバルゲームをやっているんでな、ニックネームでよく呼び合うんだ

よ。だからたまに呼び間違えるんだよ。俺が伍長で、タマ樹が二等兵、ドロ義が兵長、クル次が曹長だ。」

うまくごまかすギロロ。

麗「なるほどねえ。」

両「強いのか、お前らは？」

タ「まあ、結構強い方がありますなあ。」

話をうまく合わすケロロ。

両「そうか、じゃあ今度サバゲーがあるからわしのチームに入れてやるよ。」

ケ「おお、アザース！喜んで。」

モ「それで両さん。警察官の仕事は何をすればよろしいのですか？」

両「まあ、基本的にはパトロール。後は派出所でデスクワークだな。交通違反を取り締まったり、道を聞かれたら道案内をしたり、市民の手伝いもする事だな。」

ケ、タ、ギ、ク、ド、モ「へえー。」

大「じゃあ、初日の今日は午前中デスクワークで午後はパトロール

にしよう。」

ケ、タ、ギ、ク、ド、モ」はは。」

研修1日目 AM10:30:00 亀有公園前派出所内

研修中のケロロ小隊。

掃除をするケロロとタママ。

部長から種類の書き方を学ぶギロロとドロロ。

中川から資料の場所を知るクルル。

麗子からお茶汲みを学ぶモア。

競馬新聞を読んでいる両津。

道案内をする寺井。

なお、派出所に来る一般人達は全員ケロロ達の顔に少し驚いていた。

タ「なんか想像していたのと違いますね軍曹さん。」

ケ「そりゃそうだよタママ君。そんなにたくさんは事件は起きないもんだよ。」

掃除をしながら会話をするケロロとタママ。

タ「しかし最初の仕事が掃除って、日向家の場合と同じじゃないで

すか。」

ケ「違うんでありますよタママ二等兵。日向家の場合は捕虜として、派出所では研修生としての仕事でありますよ。」

タ「なるほど、でも、掃除はしないといけないもんですか？」

ケ「そうだよタママ二等兵。えらい人はみんな最初はこういう事ばかりやらされた下積み生活だったんでありますよ。」

大「そうだぞ。」

様子を見に来た大原部長。

ケ「これはこれは部長殿。」

敬礼をするケロロとタママ。

大「人生で一番大切な事はこつこつ働く事だ。そうすれば良い未来がまっているのだよ。」

タ「そうなんですか。でも、掃除なんてメイドさんにやらせばいいじゃないですか？」

西澤家の生活によりメイドの力を知っているタママ。

大「タマ樹君、メイドなんていないから自分でやりなさい。」

タ「いいじゃないですか、税金を無駄使いをしている議員がいつぱいいるんですから、メイドさんを雇っても。」

大「そんなことをしたら国民の怒りが上がるからダメだろ。」
ツツコミを入れる大原部長。

タ「ヤバいですかそれ。」

大「うむ、両津が怒るぞ。」

ケ「やっぱり地道な苦労が必要って事でありますな。」

まとめるケロ口軍曹であった。

研修1日目 AM11:00:00 亀有公園前派出所内

ケ「よし、掃除終了であります。」

両「よお、頑張っているなあ。」

休憩室に訪れる両津。

ケ「これは両さん。やっと掃除が終わった所でありますよ。」

両「しかし、掃除うまいなあお前。プロ並みだぞ。」

ケロ口の掃除のうまさをほめる両津。

ケ「それ程でもないでありますよ。さーて、一息入れてガンブラでも作るであります。」

モ「ハイイ、おじさま。」

ガンプラを持ってくるモア。

両「何?!ガンプラだと?!」

顔色を変える両津。

ケ「いや、これはちょっとした気分展開でありまして。」

戸惑うケロロ。

両「何で早くやらん。一緒に作ろう。」

ずっこけるケロロ。

ケ「ってやるんですかあなた!」

突っ込むケロロ。

両「おお、プラモは大得意だからな。早速出せ。」

ケ「では我輩、ズソツクとガンダムを作るので両さんはジムを頼むであります。」

両「まかせろ。」

ガンプラを作り始める両津とケロロ。

ケ「イヤー、ガンプラはいいもんでありますなあ、両さ……ゲ

ロツ?!」

ケロロの目の前で素早くジムを作り上げて行く両津。

ケ「凄い、我輩の作るスピードの3倍はある。はつまさか。」

何かを思い出したケロロ。

ケ「以前見に行ったガンプラのジオラマ大会で、最優秀賞の作品があつて、それはまさに本当に試合を見ていてといったいい程性能な出来でありました。まさかオタク達の中で名をとどろかせている別名

「下町の赤い彗星」と言われているモデラーとは両さんの事では。」

両「そのまさかだ。」

自慢げになる両津。

ケ「ゲーロ!!我輩とんでもないのと知り合いに成ってしまったであります!!」

あまりの出来事に震えるケロロであった。

研修1日目 PM00:00:00 亀有公園前派出所内

両「よっしゃ、昼飯だ。」

ガンプラを片付ける両津。

ケ「両さんは何を食べるでありますか。」

工具を片付けるケロロ。

両「金がないからカップラーメンだな。」

笑いながら移動する両津。

大「今日は何をするかね。」

メニューを見る大原部長。

タ「皆さん、大丈夫ですよ。今日は僕がおこりますよ。」

両、大、中、麗、寺「はっ？」

不思議がる派出所メンバー。

タ「あ、ちょうど来た所です。」

急に派出所前に大きいトラックが現れた。そこからフランス人シェフらしい人物が現れた。

シェフ「ボンジュール。レストラン「ナポレオン」から出張サービスです。」

両「出張サービスだと?!」

中「ナポレオンって、僕が接待によく使っている銀座の高級フランス料理レストランで、銀座の中でも五本指に入っている名店ですよ。」

麗「私も行っているわよ。お久し振りです料理長。」

挨拶をする麗子。

シェフ「これはこれは、秋本様と中川様。お久し振りでございます。」

「

中「今日はどうして来たんですか？」

シェフ「今日は西澤グループから頼まれまして、最高級の食材で昼食を作りました。代金は既に西澤グ

ループからもらっています。」

両「何?!?!」

驚く両津。

タ「今日からお世話になるので挨拶代わりにと、僕がモモッチに頼んだです。モモッチもよく宅配サー

ビスを頼むです。やっぱりここの料理は最高です。」

自慢げになるタママ。

シェフ「さあ、ごゆっくりと召し上がって下さい。」

次々とスタッフが現れ、フランス料理を派出所に運んで行く。瞬く間に休憩室にテーブルセッティングがされ、豪華な昼食の用意が終了した。

大「おお、これはこれは。」

寺「凄い豪華！」

驚く庶民の大原と寺井。

両「イヤー、こんな食事久しぶりだな。では、お言葉に甘えて、ゴツチになるぞ。」

良く中川にごちそうしてもらっているので、慣れている両津。

全員「いただきます。」

料理を口に運ぶケロロ小隊と派出所メンバー。

両「ウマー……イ……！」

寺「本当！こんなにおいしいフランス料理は食べた事ないよ……！」

大「全くだ。」

中「やっぱりおいしいですね。」

麗「いつ食べてもおいしいわね。」

ケ「美味しい美味しい！」

ギ「これはなかなか。」

タ「やっぱり最高です。」

ク「クツクツクツク。」

ド「なかなか美味でござる。」

モ「美味しい。っていうか五体満足。」

大絶賛である。

シェフ「皆様に喜んでもらえば光栄です。」

嬉しい顔をする料理長。

研修1日目 PM00:50:00 亀有公園前派出所外

シェフ「中川様、秋本様。また当店に来て下さいね。」

すべてを片付けて、車で去る出張サービス。

中「そうしますよ。」

麗「今度はロマネコンティに合う料理をよろしくね。」

見送る中川と麗子。

両「イヤー、食った食った。」

爪楊枝で歯を掃除する両津。

ケ「ほんとにウマかったでありますなあ。」

タ「やつぱモモチに頼んでおいて正解だったですう。(これで僕の印象はアップしたですう。我ながらいい作戦です。)」

心の中ではイメージアップのための作戦に満足するタママ。

両「ところでさ、西澤グループって、凄い金持ちなのか？」

中川に質問をする両津。

中「ええ、僕と同じぐらいに有名ですよ。社長の西澤梅雄さんにも仕事で何度かあった事もありますね。」

説明をする中川。

ケ「そりゃ、桃華殿の家はとてつもなく広いでありますからね。資産がとてつもなく多いでありますよ。」

両「ほう、一度入ってみたいな。よし、今夜はすしにしよう！ワシの親戚が寿司屋をやっているからな。」

ケ「おお、ゴツチになります。」

喜ぶケロ口軍曹であった。

研修1日目 PM01:00:00 亀有公園前派出所外

両「では部長、パトロールに行つてきます。」

ケ「行つてくるであります。」

両さんともにパトロールに出発をするケロロ小隊。

大「うむ、しっかり亀有を案内してやれよ。」

ケロロ達の亀有探検が始まった。

T o b e c o n t i n u e d

PART 3 ケロロ派出所勤務開始であります。(後書き)

なかなかアイデアが思い浮かばないもんで。

両さんをなんとかうまく使っています。

今回のネタ

両さん型ザク 量産型ザク

ウマーーーーーーイ!!! スピードワゴンの「甘い」

下町の赤い彗星 ガンダムシャアの異名の「赤い彗星」(作者が勝手に付けました。)

それじゃあ、また会おうぜ!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8804k/>

ケロン人VS下町警察官

2010年10月17日03時57分発行